

国際協力トークイベント「日本も元気にする海外ボランティア」開催

01

8月30日、東京・有楽町朝日ホールで、国際協力トークイベント「―世界も、自分も、変えるシゴト。―日本も元気にする海外ボランティア」(主催・JICA、共催・朝日新聞社)が開催されました。

第1部では、前横浜市長の中田宏さんが、「日本の地域の活性化と国際協力」青年海外協力隊への期待」をテーマに講演。協力隊経験者などの職員採用を推進してきた経験について触れ、「開発途上国で貴重な経験を積み、たくましい『人間力』を養ってきた協力隊経験者は、日本の地域に必要とされる宝だ。彼らのような人材がさまざまな場所できちんと生かされる社会をつくっていかねばならない」と呼び掛けました。

続く第2部では、朝日新聞社論説委員の脇阪紀行さんを進行役に、地域社会で活躍する3人のJICAボランティア経験者が参加するパネルトークが開かれました。現在、助産師として活躍し、助産院「いのち輝かせ屋」を大阪府で営む小川圭子さんは、「協力隊で視野が大きく広がった。育児中の母親への

訪問事業などの支援を通して、一人一人の命が輝ける社会を築いていきたい」と抱負を語りました。また、日系ブラジル人の子どもたちが多く学ぶ愛知県の小学校で日本語教師を務める関谷たかねさんは、「自分が外国人として生活してきたブラジルでの経験を生かし、日系人の子どもたちが将来の夢を持てるよう、地域とともに支えていきたい」と話しました。

さらに、福井県で農園を営み、海外から農業研修生を受け入れたり、農業を通じて地元根付いたさまざまな活動をしている田谷徹さんは、「外部の人々との交流を促し、『よそ者』の視点を取り入れた地域の活性化に貢献していきたい」と述べました。



前横浜市長の中田宏さんが講演

パレスチナ難民キャンプの子どもたちに楽しみと喜びを

02

ヨルダンでは、全人口の約3分の2をパレスチナ系の国民が占め、国内10カ所のパレスチナ難民キャンプに約33万人が生活しています。そこに住む子どもたちには、学校が夏休みに入ると、遊んだり体を動かす場所がありません。

そんな子どもたちのため、青年海外協力隊の短期隊員(青少年活動)10人が7〜8月にかけて派遣され、スポーツイベントが開かれました。

隊員たちは3つの難民キャンプに分かれ、男子にはサッカーを、女子にはドッジボールを指導。競技を通じ、体を動かす楽しさやチームプレーの意義、皆で何かを成し遂げることの喜びを伝えてきました。

8月19日には、各キャンプの代表選抜によるキャンプ対抗戦を首都アンマンで開催。日本の運動会のように選手宣誓と準備体操を経て始まった各競技では、子どもたちが協力し合いながら力いっぱい体を動かしていました。

JICAヨルダン事務所では、今後も体育や美術、音楽などの情操教育を行う隊員の派遣を通じ、子どもたちの健全な成長を支援していきます。



対抗戦で、力強くボールを投げる女の子たち

青年海外協力隊
シニア海外ボランティア募集開始!

03

JICAは、青年海外協力隊・シニア海外ボランティアの2009年度秋募集を行っています。また、1年未満であれば参加できるという方を対象とした短期ボランティアも、10月30日より募集します。募集資格、募集分野などの詳細は、ホームページ(<http://www.jica.go.jp>)をご覧ください。
募集期間：10月1日(木)〜11月9日(月)
問：JICAボランティア募集
選考窓口
TEL：03-3406-9900